

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

②分野横断的な科目群、副専攻科目群等の充実

●大阪大学薬学研究科創成薬学専攻、応用医療薬科学専攻

「創薬推進教育プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

創薬とイメージングにかかる講義2科目と実習1科目を新規に開講し、薬学研究科と医学系研究科保健学専攻の大学院生がともに履修・単位化できるように規程等を整備した。また、既存の12講義科目を両研究科・専攻の相互履修共通科目として設定した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

創薬のプロセスを考慮して一連の流れを理解できるように講義内容を厳選するとともに、両研究科・専攻の時間割を調整し、大学院生が履修する上で一番適当と思われる開講曜日と時間帯を設定した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

専門を異にする学生同士が机を並べて同じ講義を受講する環境を与えたことにより、自身の専門のみに留まることなく、広い視野を身につけさせることができた。